

新櫓下豊竹古靱大夫に寄す

淨瑠璃界の重鎮豊竹古靱大夫には賤拙の新春に當り、文樂座櫓下の榮位に就かることゝなりました。今後一層同師に期待するもの多いと思ひますので、同師への希望、注文、警告等、日頃抱懷せられるところを洩らして頂くやう諸名士に懇請いたしその御回答を得ました分を左に掲げるとこといたしました。
(順序不同は御許し願ひます。)

○ 安 藤 鶴 夫

一、無理でない注文(或は無理かも知れぬ注文)

文樂座のレパートリイをみどり式から、本來の藝題をたてゐることに改めて下さい。昨年に至つて、俄に拙劣な演出が多くなつたことは恐ろしいことです、作品のよさにのみ手頼つて、古典藝術云々を振り廻すのは戒心せねばなりません。

二、無理な注文(或は無理でないかも知れぬ注文)

風邪を引かないで下さい。病氣でもない時に、醫者にかゝるやうな神經質はやめて下さい。

○ 木 谷 蓬 吟

在來の謂ゆる紋下は、その名稱も實績も曖昧であつた。

古靱氏の新「櫓下」は、その歴史的意義の示す通り、大阪城の櫓下、一座の棟梁として——自家藝道の精進は云ふまでもないが——特に我が淨瑠璃軍の先鋒を承つて、斯道への自覺と反省に、先づ善處ありたいと祈る。

○ 平 山 蘆 江

古靱さんが文樂座の紋下になられたことは、文樂座のために大層よい事だと思ひます。古靱さんの人柄と、藝柄とは別です。たゞ文樂座が古靱さんによつてよくなれば、後進の道が開けるし、やがて文樂萬歳を唱へる時が招來すると思ひますから。

○ 石 井 琴 水

古靱大夫師に對する小生の希望も注文も、小生が雑誌を發

行せる當時既に云ひ盡し、現今斯界より遠ざかり居る小生には、警告致すべき資格無きかと存じ候。

たゞ同師に願ふところは、同師の自重あるのみに候。

○ 西 村 紫 紅

義大夫藝術ほど體力の強壯を要するものはあるまい。私は古靱師の至藝に一日も長く接したい希望から、先づ健康を要求する。そして益々深く練磨し、研究して、その妙趣を味はせて欲しいのである。

○ 田 中 煙 亭

拜復 古靱大夫師の紋下榮進に關し、不肖老骨にまで御懇書を拜し恐縮、直に御回答申上ぐる筈の處、客月來宿痼稍々重り、苦惱の朝夕を送り候爲、遷延申譯無く候。右の次第にて、東上の文樂も遂に不參、師の妙音に接せず、豫ての感想とてあらためて申上ぐる程の事もなく、たゞ此上とも傳統の純眞藝術、所謂音曲の司たる義大夫節の完全なる保存、向上に努力し、後進の誘掖に盡瘁せられんことを希望する外なく延引ながら右まで。草々。

○ 久 保 田 金 僊

古靱大夫の紋下に昇格されたことは、誠に慶賀の至りです

また目下の淨界についてはさもあるべきこと也。且つ同師の従前よりの努力の然らしむるところとなづかれます。しかし、同師のあとをついで、誰れ／＼と指を屈しますか、其點については少々淋しい心持ちもいたします。依つて今後は同師に次ぐべき人々の養成を祈ります。

○ 岡 鬼 太 郎

御懇書拜誦仕候へ共、何の存じ寄りも無御座、乍折角御返事申上げ兼ね候。不惡思召し被下度候。

○ 河 野 國 聲

古靱師の事故、大いに人の言はぬ半面を書いて賞揚したいこと山々ですが、とても／＼忙しくて、筆執る暇が無いんです。書けたら書いて送りますが、間に合はなかつたら悪しからず。

○ 岡 本 井 筒

咲く花に向ふ敵無し鑑草——我が古靱師は其の人格、その研究、その技倆に於て、嶄然四邊を拂つて居る。また日本因協會々長として、文樂座統率者として東西一致、上下推薦するところ、而も從來の舊慣を廢して櫓下に還元したる事、流石古典を尊重する平素の主張と、新境開拓の雄志あり／＼と